



ムーク（MOOC）とは

1. ムークとは

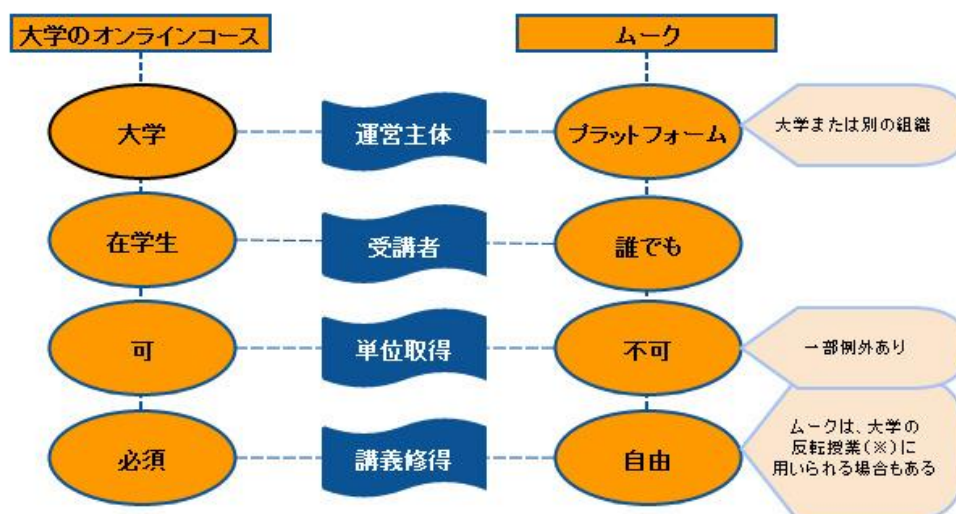
1-1. 「ムーク」の意味

ムーク＝MOOC (Massive Open Online Course) : 「大規模公開オンライン講座」と呼ばれることが多い。定まった定義があるわけではないが、数あるムークのウェブサイト（プラットフォームと呼ばれる）で共通して見られる要素としては以下のものがある。

M assive: 規模が大きい <ul style="list-style-type: none"> ・受講者数が多い ・送受信されるデータの量が多い →1人ずつの個別データを解析できるだけの技術がある 	O pen: 無料、受講要件なし、オープンソース?? <ul style="list-style-type: none"> ・授業料なし (有料修了認定証を発行するところもある) ・受講するための条件がない ・再利用可能?? (著作権が保護されているコンテンツもある)
O nline: オンライン <ul style="list-style-type: none"> ・世界中からアクセス可能 	C ourse: 1つの科目として提供される <ul style="list-style-type: none"> ・毎週開講される＝コンテンツが配信される →受講者は同じベースで学習 →学習提供側との相互作用性(interaction)

1-2. 大学のオンラインコースとの比較

大学によっては、オンラインによる授業を提供しているところもある。これらのオンラインコースとムークを比較すると下図のようになる。



反転授業 (flipped classroom):
従来の教室で講義を行い宿題として応用課題を課していた授業スタイルに対し、空き時間にオンライン教材などで基礎を学び、教室で応用課題を行う学習スタイル



ムークは個々の大学のウェブサイトではなく、プラットフォームと呼ばれるサイトで科目が提供される。受講者はどこかの教育機関に在籍をする必要はない。基本的にムークの科目を修了したからといって単位は取得できない。例外として、特定の大学では、いくつかの特定のムーク科目の単位認定、あるいは学修経験としての単位認定が行われる場合もある。ムークの修了率は低く（5～10%程度とも言われている）、受講者は講義修得を目指しているとは限らない。例えば、既存の大学がムーク科目の一部のコンテンツを、開講している正規科目の補助教材として用いているところもある。

2. ムーク登場の背景

2-1. オープン教育

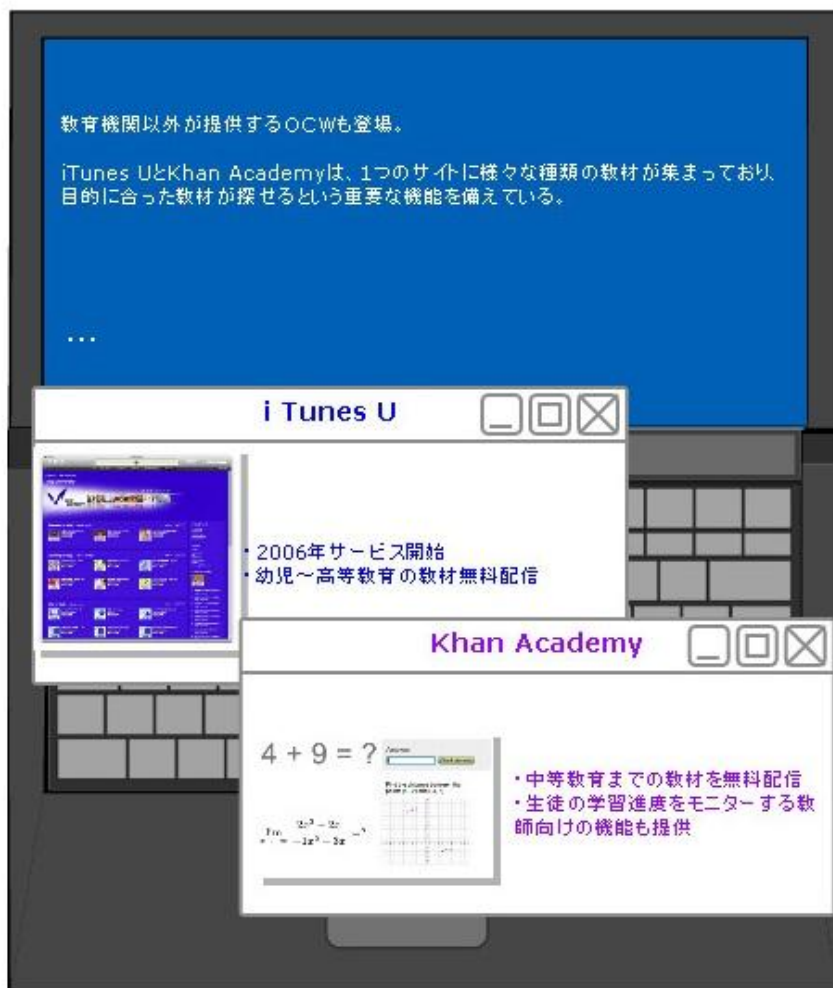
インターネットを介した教育の提供は以前から行われてきた。OER と呼ばれるオンライン上に公開されているコンテンツが、誰でも質の高い教育を受けるために重要であるとして、以前から注目されていた。2012 年には UNESCO が「パリ OER 宣言」を採択し、各国政府に OER の有益な使用を呼びかけた。OER をさらに発展させたものとして、高等教育の教育コンテンツの無償公開活動である OCW が挙げられる。OCW の特徴として、大学が主体となり講義をオンライン上に提供していることが挙げられる。

<p>OER: Open Education Resource</p> <p>公共利用またはオープンライセンスのもと提供されている教材を指す。 OERは誰もがいつでも合法に使用、再掲載、引用、共有することができる。 OERとして利用されている教材には教科書、カリキュラム、シラバス、授業ノート、レポート、試験、課題、音声、ビデオ、アニメーション等がある。</p>
<p>OCW: Open Course Ware</p> <p>無料で再利用可能な、高等教育レベルの質の高い電子版教材を指す。 段階的に学習できる講座として提供され、受講の手引きや理解度確認ツール、テーマ別コンテンツも併せて利用できることもある。 OCWはオープンライセンスのもと、誰でもインターネットを経由してアクセスすることができる。</p>

(定義出典：European Commission, 2013)

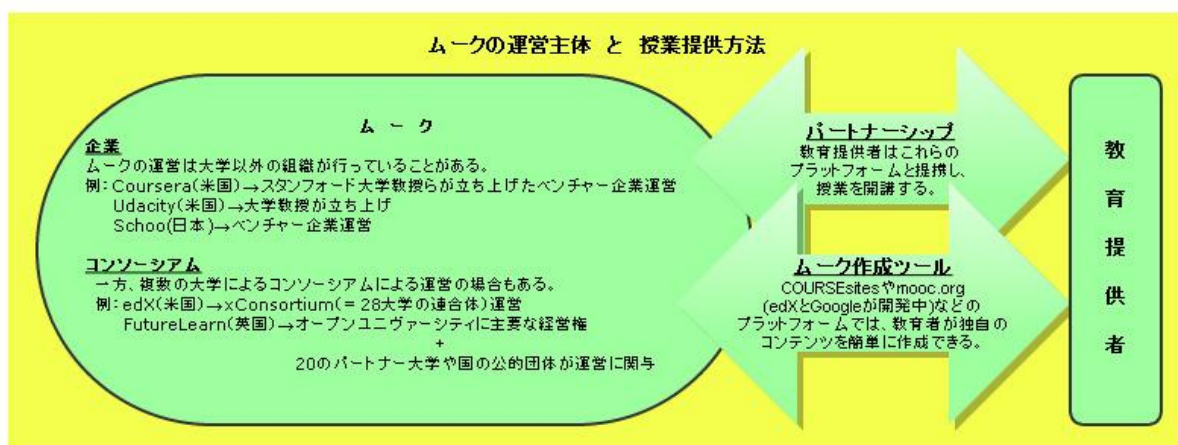


2-2. 大学以外の組織による OCW



大学以外の組織による OCW では、その提供内容に多様性が生じ、より多くのユーザーを引きつけた。こうした大学以外の組織による OCW の存在が、ムークの登場へとつながっていったとみられる。

2-3. ムークの運営と授業提供





ムークは企業による運営、または教育機関によるコンソーシアムによる運営の 2 パターンであることが多い。主なプラットフォームについては下図を参照。

ムーク授業の提供方法としては、提供者（教授個人や大学など）とプラットフォームが提携しコンテンツを開発していくケースが主流である。しかし、COURSEsite や mooc.org のように、より簡単にムーク科目を開講できる仕様も開発されている。



Coursera	米国	https://www.coursera.org/ (※東京大学が講義を提供)
COURSEsite	米国	https://www.coursesites.com/
edX	米国	https://www.edx.org/ (※京都大学が講義提供予定)
Futurelearn	英国	https://www.futurelearn.com/
Iversity	ドイツ	https://iversity.org/
Khan Academy	米国	https://www.khanacademy.org/
NovoEd	米国	https://novoed.com/
NPTEL	インド	http://nptel.iitm.ac.in/
OpenupEd	欧州	http://www.openuped.eu/
Open2Study	豪州	https://www.open2study.com/
P2PU	米国	https://p2pu.org/en/#moocs
Schoo	日本	http://schoo.jp/
Udacity	米国	https://www.udacity.com/
Udemy	米国	https://www.udemy.com/
Veduca	ブラジル	http://www.veduca.com.br/

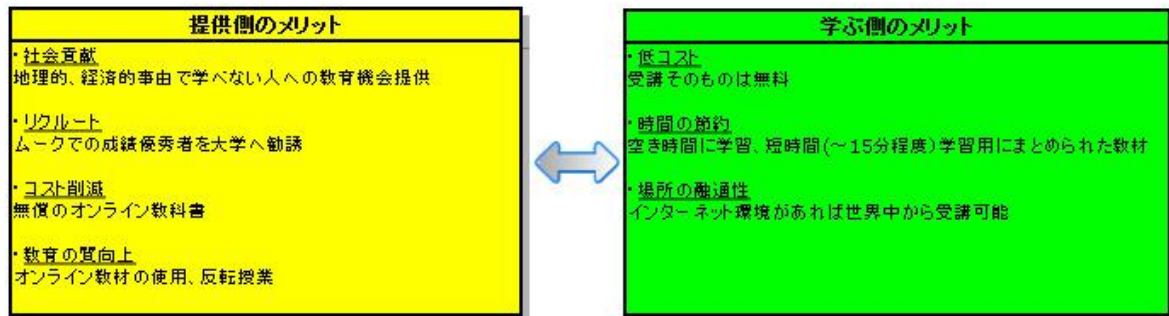
(CIQG and Daniel, 2013 などを元に作成)

2013 年 10 月に、日本の高等教育を国際的に孤立化させないとの観点から、日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)が発足している。

<http://www.jmooc.jp/>



3.ムークのメリット



(重田, 2013 などを元に作成)

教育を提供する側と教育を受ける側、それぞれの主なメリットは上図のとおりである。

これ以外にも、提供側は学習者に関する大量のデータ取得、学ぶ側は世界トップレベルの講義へのアクセスなども魅力に挙げられる。

参照記事

- CIQG and Daniel 2013, Commentary on MOOCs, The Newsletter of the CHEA International Quality Group, September, Vol. 3, pp. 1-2
- European Commission 2013, [European higher education in the world](#). Communication from the Commission to the European Parliament, the Council, the European Economic and Social Committee and the Committee of the Regions, COM(2013) 499 final, p.7, 2013年7月16日アクセス
- 重田 2013, [MOOCsのインパクトと高等教育の未来](#), 2013年9月2日アクセス

参考情報

- 船守 2013, 世界で広がる無料のオンライン講義とは, *リクルート カレッジマネジメント*, 181 / Jul - Aug, pp. 36-41
- 古賀 2013, [MOOCとOCWの違い](#), *eラーニングかもしれないBlog*, 2013年6月2日, 2013年9月2日アクセス
- 大学評価・学位授与機構 (2013) *大学評価フォーラム「『学び』からみる高等教育の未来」報告書*, Demillo, R. A., [「アベラールからアップルへー米国の大学の運命ー」](#) pp. 14-29
- United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (2013) [What is the Paris OER Declaration?](#), 2013年10月21日アクセス